

令和6年度 岡山県立早島支援学校 学校評価書

I 自己評価

I 評価結果					
A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った					
学校経営 目標	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(最終)		
			達成状況	評価	総合 評価
1 子どもの 豊かな学 びを支え る 専 門 性・授業 力の向上	児童生徒が主体的に学ぶための資質・能力の育成を目指した授業づくりについて研究を深める。	「①子どもたちは、学校へ来ること(家庭・病院での授業、担任の訪問)を楽しみにしている」、「⑦児童生徒が主体的に学ぶことができるように教材や支援の工夫をしている」について、「当てはまる」と評価した教職員・保護者が、ともに85%を超える。	①保護者84% 教職員73% ⑦保護者72% 教職員60%	B	B
	学習指導要領の趣旨を踏まえ、観点別評価による学習評価の妥当性の向上に努める。	「⑧子どもたちの学習について3観点で適切に評価している。」と、評価した教職員が、80%を超え、「⑧学校は、子どもたちの学習について適切に評価している」について、「当てはまる」と評価した保護者が、75%を超える。	⑧教職員97% ⑧保護者76%	A	
2 子どもの 安 心 安 全を支え る 専 門 性・シス テムの充 実	医療的ケア校内委員会を中核として校内支援体制の充実を図るとともに、関係機関との連携を深める。	「⑨保護者の相談に対して適切な対応や支援を行っている」、「⑩子どもたちの健康状態や体調の変化に適切に対応している」、「⑪医療や福祉の機関等と連携した取組を行っている」、「⑫けが等の事故発生時や感染症の流行に適切に対応している」と評価した教職員・保護者が、ともに85%を超え、かつ「当てはまる」との評価が、80%を超える。	⑨保護者97(74)% 教職員100(57)% ⑩保護者96(76)% 教職員100(85)% ⑪保護者91(63)% 教職員97(61)% ⑫保護者97(72)% 教職員99(72)% *()は「当てはまる」の数値のみ	B	A
	服薬書類や備蓄物品、緊急時の避難経路等を整理・周知し、防災体制の充実に努める。	「⑬備蓄物品(防災かばん含む)の保管場所、緊急時の避難経路等が分かり、災害時に迅速に対応することができる」と評価した教職員が、80%を超える。 「⑮学校は、災害に備えた取組を行っている」について、「当てはまる」と評価した保護者が、75%を超える。	⑬教職員94% ⑮保護者83%	A	
	いじめや虐待について早期発見や予防等、関係機関と連携しながら組織的な対応に努める。	「⑭学校は、いじめや虐待について、早期発見や予防等校外の関係機関と連携しながら組織的な対応に努めている」と評価した教職員が、80%を超える。 「⑬子どもたちの人権を尊重したり、プライバシーを保護したりしている」、「⑭お	教職員⑭98% ⑬保護者79%	B	

		互いを思いやり生命を大切にする態度を育てたり、いじめの未然防止等に取り組んだりしている」について、「当てはまる」と評価した教職員・保護者が、ともに80%を超える。	教職員79% ⑭保護者72%		
3 地域とともにある開かれた学校づくりとセンター的機能の充実	地域とともにある学校づくりを目指し、地域との交流を考えたり、地域の人材や資源を活かしたりした教育活動を行うとともに、学校の取り組み情報をタイムリーに発信をする。	「⑰学校は、地域との交流を考えた教育活動（学校間交流・居住地校交流等）を行っている」と評価した教職員・保護者が、ともに85%を超える。 居住地校交流の実施率を40%以上にする。	⑰保護者92% 教職員92% 実施率 30%	B	B
		「⑱学校は地域の人材や資源を活かした教育活動（ボランティア等）を行っている」と、評価した教職員・保護者が、ともに85%を超える。	⑱保護者87% 教職員83%	B	
		「⑲学校は、各通信やICT（学校メール、ホームページ、ブログ、Facebook）、学校公開や公開講座等を活用して情報発信を行っている」について、「当てはまる」と評価した保護者が80%を超える。	⑲保護者74% 教職員65%	B	
4 働きがいのある職場づくりの推進	学校運営組織の活性化を進めるとともに、教育DXを推進して業務の効率化をはかる。	「②ICT 機器を活用したり、学校組織の改善を図ろうと努力したりすることで、効率的に業務を行っている」と評価した教職員が90%を超える。	②教職員87%	B	B
	自己の課題と役割を意識しながら、多様な研修スタイルによる実践的な研修の場を設け、専門性の向上を目指す。	「③研修を通して特別支援教育についての専門性を深めることができている」 「②②他の教職員と日常的に積極的に関わり、報告・連絡・相談を行うことでOJTの活性化に努めている」について「当てはまる」と評価した教職員が、50%を超える。	③教職員39% ②②教職員46%	C	

※積極的に自己評価するとは、4段階評価で「当てはまる」の評価をつけることを意味するものとする。

Ⅱ 分析・改善方策

Ⅰ 子どもの豊かな学びを支える専門性・授業力の向上に関する評価

評価書の項目は、目標を上回った項目と下回った項目があったが、おおむね目標通りであった。

○児童生徒が主体的に学ぶための資質・能力の育成を目指した授業づくり

「①子どもたちは、学校へ来ること（家庭・病院での授業、担任の訪問）を楽しみにしている」は、肯定的評価（「当てはまる」・「やや当てはまる」）は97%と高かったものの、「当てはまる」と評価した保護者は84%、教職員は73%で目標の85%を超えることはできなかった。しかし、昨年度より「当てはまる」の評価が教職員・保護者ともに増加していた。「⑦児童生徒が主体的に学ぶことができるように教材や支援の工夫をしている」について、肯定的評価（「当てはまる」・「やや当てはまる」）は97%と高かったものの、「当てはまる」と評価した保護者は、72%、教職員60%で、85%を超えるという目標を達成することはできなかった。

○学習指導要領の趣旨を踏まえた観点別評価による学習評価の妥当性の向上

「教⑧子どもたちの学習について3観点で適切に評価している。」と、評価した教職員が、97%、「保⑧学校は、子どもたちの学習について適切に評価している」について、「当てはまる」と評価した保護者が、75%を超え、達成することができた。特に、教職員は、昨年度の「適切な評価」から「3観点に基づく適切な評価」としたが、肯定的な評価が増加したので、研修等を通して意識した取り組みができていたと考える。

2 子どもの安心安全を支える専門性・システムの充実に関する評価

評価書の項目は、目標を上回った項目と下回った項目があったが、おおむね目標通りであった。

○医療的ケア校内委員会を中核とした校内支援体制の充実と関係機関との連携強化

いずれの質問項目も、肯定的な評価が85%を超えていたが、「当てはまる」との評価は、「⑩子どもたちの健康状態や体調の変化に適切に対応している」について、教職員の評価が85%であったのみで、他は目標を下回ったが、いずれも、保護者の評価の方が、教職員の評価より高かった。最も低かった項目は、「⑪医療や福祉の機関等と連携した取組を行っている」の61%であった。

○服薬書類や備蓄物品、緊急時の避難経路等の整理・周知と防災体制の充実

どちらも達成することができた。

○いじめや虐待について早期発見や予防等、関係機関との連携や組織的な対応

「教⑭学校は、いじめや虐待について、早期発見や予防等校外の関係機関と連携しながら組織的な対応に努めている」と評価した教職員が、80%を超えることは、達成できた。

「⑬子どもたちの人権を尊重したり、プライバシーを保護したりしている」は、教職員・保護者ともに、79%で概ね達成できていた。「保⑭お互いを思いやり生命を大切にする態度を育てたり、いじめの未然防止等に取り組んだりしている」は、72%であった。保護者の方から、「具体的にどの様な事をしているのかわからない」とのご意見が複数あることから、具体的な実践を周知する必要があることがわかった。

3 地域とともにある開かれた学校づくりとセンター的機能の充実に関する評価

評価書の項目は、目標を上回った項目と下回った項目があったが、おおむね目標通りであった。

○地域との交流や人材・資源の活用とタイムリーな情報発信

「⑰学校は、地域との交流を考えた教育活動（学校間交流・居住地校交流等）を行っている」と評価した教職員・保護者が、ともに85%を超えるという目標は、達成することができた。

居住地校交流の実施率を40%以上にするを目標としたが、30%であった。しかし、昨年度と比べて増加しているので、引き続き、意義とともにお知らせをしていきたい。

「⑱学校は地域の人材や資源を活かした教育活動（ボランティア等）を行っている」は、保護者は達成できた。教職員は、83%であったので概ね達成できた。

「⑲学校は、各通信やICT（学校メール、ホームページ、ブログ、Facebook）、学校公開や公開講座等を活用して情報発信を行っている」について、「当てはまる」と評価した保護者が80%を超えることを目標としていたが、74%とまだまだ情報発信が不十分であることがわかった。

4 働きがいのある職場づくりの推進に関する評価

評価書の項目は、目標を下回った項目が多かった。

○学校運営組織の活性化と教育DXの推進による業務の効率化

「②ICT機器を活用したり、学校組織の改善を図ろうと努力したりすることで、効率的に業務を行っている」と評価した教職員は87%だった。今年度は、学校メール・アプリを導入した。活用の機会を広げるとともに、使い方についても改善・周知していきたい。

○多様な研修スタイルによる実践的な研修と専門性の向上

「教③研修を通して特別支援教育についての専門性を深めることができている」について、「当てはまる」と評価したが41%、「教②他の教職員と日常的に積極的に関わり、報告・連絡・相談を行うことでOJTの活性化に努めている」について「当てはまる」と評価した教職員が、46%だった。肯定的評価は、昨年度と大きく変わっていない。

2 学校関係者評価

1 子どもの豊かな学びを支える専門性・授業力の向上について

・「学校に来ることを楽しみにしているか」の評価項目について、保護者の「当てはまる」が少ないうような気がするが、学校の取り組みが不十分だからではなく、他の原因もあり、学校だけが要因ではないのではないかと。「評価を適切にしているか」は、学校は、保護者の希望を聞いて、個人に合った学習を設定してくれているが、その作業が形式的なところになりがちのような気がする。保護者の希望に対して先生が色々と工夫をしてくれて評価をしてくれているが、普段のやり取りの方が信頼できる。保護者としては、日々の連絡帳の表記の方が納得できる。

・地域に暮らす病弱児や病気療養児が先輩の様子を聞くことで、将来をイメージしやすくなる。そういう活動を、これからも続けてほしい。

2 子どもの安心安全を支える専門性・システムの充実について

・医療関係機関との連携について、今までやってきたことを、さらに広げて発展させる、何か新しいことを始めるなど、できることから始められたらよい。医療機関も、できることは協力する。

・災害に関しては、倉敷支所に過去の情報が集約されているので聞いてみてはどうか。山陽ハイツが防災公園になっており、地形が早島支援学校と似ているので、参考になることがあるのではないかと。早島町にしてみれば、この学校が一つの拠点になるので、一つの視点として良いのではないかと。

3 地域とともにある開かれた学校づくりとセンター的機能の充実について

・学校間交流での直接交流で課題になるのは、時間の設定である。平日に実施することが、生徒や教員の負担減になる。

4 働きがいのある職場づくりの推進

・本来の教員の業務以外の部分を AI が担ってくれたら、本来の業務にもっと時間を使えるのではないかと。

3 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

1 子どもの豊かな学びを支える専門性・授業力の向上

個別の指導計画の活用をさらに進め、自立活動と各教科との関連について整理するとともに、専門家とも連携しながら、指導の一層の充実を図る。また、各教科等で育成する資質・能力に基づいて授業改善に取り組むとともに、観点別評価の妥当性の向上に努める。

2 子どもの安心安全を支える専門性・システムの充実

安心安全な医療的ケアの実施について、医療的ケア校内委員会を中核として、安心・安全なケアの実施に努めるとともに、保護者負担の軽減を含む校内支援体制の充実と児童生徒の学習保障の両立を目指し、学校生活全体の充実を図る。また、健康な学校生活の確保のため、アレルギーや感染症等について、マニュアルの見直し等により確実な対応に努める。さらに、いじめや虐待について早期発見や予防等、関係機関と連携しながら組織的な対応に努めたり、学校防災マニュアルの見直しや、隣接する病院や行政機関との連携等により、防災体制の一層の充実に努めたりするとともに、具体的な実践を保護者に周知する。

3 地域とともにある開かれた学校づくりとセンター的機能の充実

居住地校交流や学校間交流の一層の充実を図るとともに、ＩＣＴを最大限活用しながら、県外を含む他の特別支援学校等との交流を進めていく。居住地校交流の実施率は昨年度と比べて増加しているので、引き続き、意義とともに保護者へ伝える。ホームページやＳＮＳ等を活用し、学校の様子をタイムリーに保護者や地域社会に伝えていくことで学校教育への理解促進と啓発に努める。

4 働きがいのある職場づくりの推進

学校運営組織の活性化を進めるとともに、生成ＡＩの活用等を推進して業務の効率化を図り、ワークライフバランスのとれた働き方を目指す。教員一人一人が自己の課題と役割を意識しながら専門性の向上を目指すとともに、互いに支え合う同僚性の醸成に努め、さらに「チーム学校」としての意識を高めたい。